

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	日本と中国の廃棄物管理コミュニティ形成支援のための中日生活廃棄物対策協議会
(英語名称)	China-Japan joint council for the community formation on municipal solid waste management
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	島岡隆行 教授 九州大学大学院工学研究院
【事業形態】*	国際集会の開催
【実施期間】†	21年12月3-5日 (3日間)
【実施場所】†	福岡県福岡市、熊本県水俣市
【参加国・地域】†	日本、中国(12省・市) 2ヶ国
【事業概要】	<p>生活廃棄物の対策は、地域の地理、気候、歴史と文化、産業、経済等の地域特性に強く影響を受け、地域固有個別の問題となることが多い。大国中国の諸都市は、独自に、多様な地域特性を考慮した廃棄物対策に取り組むことを強いられる(多様性の困難性)。中国の主要都市は、日本や欧米諸国の都市と比べ人口、経済規模が各段に大きい(社会規模の困難性)。中国は過去に類を見ない速さで経済発展を遂げており、生活廃棄物の発生量は著しく増加している(発展速度の困難性)。中国の資源循環及び適正な生活廃棄物処理対策は、規模が大きいが故に、一国の範疇を超え、近隣諸国にも影響を及ぼしかねない東アジアの問題として捉えられる(複合の困難性)。さらに、人類は避けて通れない地球環境問題を抱えており、大国中国における資源・エネルギー施策は問題解決の要である。資源循環と基調とした適正な廃棄物処理が、中国全土で確実に実施されなければならない(同時の困難性)。</p> <p>このような状況において、廃棄物・資源循環に関するわが国と中国との国際協力の重要性はますます高くなることが予想されるが、現状の日本と中国の廃棄物研究は、北京、上海など特定の大都市の研究者との研究コミュニティに限定されている。地域固有個別の問題を抱える廃棄物問題を議論できる国際コミュニティを構築するためには、わが国の廃棄物コミュニティと中国全体をカバーするコミュニティとの連携が必要である。これらの困難性を短期間で克服するために、中国全土の主要都市から生活廃棄物に関する研究及び技術の中核的人材が使命感を持って一堂に集い、①最新情報の共有、②課題の共有、③問題解決に向けた専門的意見の交換、協力と互助、④技術及びシステムに関する知見と経験の公開と共有、⑤中国国内及び中日ネットワークの構築と強化によって、健全な国民生活の向上と中国、引いては東アジアの環境保全と持続的社会的な構築を目標とする。参加予定機関は、中国12重点都市の大学および研究機関、わが国からは九州大学、北海道大学、国立環境研究所など最先端の廃棄物研究を実施する大学・研究機関が参加する。本年12月を第1回とし、熊本県水俣市で開催した後、定期的に中国の重点12都市から順に開催都市を選び機動的に会議が開催される。</p> <p>本事業は、廃棄物管理や研究に関する豊富な知見を有するわが国がイニシアティブをとり、日本と中国の廃棄物コミュニティの接点となる国際的な専門家協議会を開催するものである。将来的には、北米の廃棄物協会が主催するWASCON、イタリア等ヨーロッパの研究機関が中心として主催するSARDINIAなど、欧米に匹敵するアジアの廃棄物研究コミュニティが構築される。</p>